

## 個別の評価指標（KPI）の見直しについて（案）

### I 総括KPIの見直し

#### 1. 社会指標（社会統計調査に基づく指標）

##### (1) 重点指標の設定〔既存＋新規〕

- ・総括 KPI のうち、戦略目標の達成に直接寄与（影響）する指標を重点指標（社会指標）に設定し、それを中心に戦略の総合評価を行う。該当するものがない場合は新たに設定  
→例）社会増減：「20～24 歳の社会増減数」

##### (2) 代理指標の設定〔±代替〕

- ・国勢調査、雇用統計調査など、3～5 年毎に実施する調査に基づく指標については、代理指標を設定  
→例）婚姻率（国勢調査）：婚姻件数（毎年）を代理指標に設定

##### (3) 相対化指標（ベンチマーク）の設定〔＋新規〕

- ・8 大府県等他自治体との比較が可能な指標の設定を検討（重点指標には、基本的に相対化指標となり得るものを選択）  
→例）外国人都道府県別訪問率順位（H28：兵庫県 11 位）

#### 2. 政策指標

##### (1) アウトカム指標への転換（入替指標）〔±入替〕

- ・成果が発現している施策については、KPI も単なる施策のアウトプット（結果）を示すのではなく、成果を適切に反映したものに改めていく  
→例）「センターの相談件数」→「相談によって就職した人の数」

##### (2) 県・市町統合指標の設定〔＋新規：一部指標と入替〕

- ・可能なものは、県施策のみならず、市町施策の効果もあわせた形で提示

##### 【統合指標例】

- ・「県・市町支援による定住者数」
- ・「県・市町支援による UJI ターン就職者数」
- ・「交流人口＝県・市町主催の交流イベント開催回数、参加者数」
- ・「お試し居住参加者数」
- ・「地域おこし協力隊定住率（4 年目以降）」
- ・「県・市町支援によるしごと創出数」等

#### 3. 主観指標（「県民意識調査」等に基づく指標）

##### (1) 指標の参照指標化

- ・参照指標として扱い、定性評価（総括コメント）の記載にあたっては言及するが、基本目標、施策の評価の数値化に際しては算入しない方向で検討

##### (2) 代替指標の設定〔±入替〕

- ・県民意識調査に基づく指標しか、総括 KPI が存在しない施策については、別途政策アウトカム指標の設定を検討

#### 2. 事業KPIの見直し

##### (1) 指標のスクラップ・アンド・ビルド〔±入替〕

- ・事業終了した事業に係る KPI を削除（28 年度、29 年度事業の状況を確認）。30 年度新規事業を見越して、新規 KPI を検討（→事業担当課で適切に管理）

##### (2) アウトカム指標への変更〔±入替〕

##### (3) 目標値の上方修正

- ・H29 年実績値が H30 年目標値を超える場合は、原則目標値の変更を検討